

School of Mod

Specifications

ENGINE ▶ S55B30型直列6気筒ツインターボエンジン換装・CSFマウントデュアルVXチャージエアークラウ・フロントマウントヒートスワッチエンジン・S55用純正追加ラジエター・オイルクーラー・電動ファン・電動ポンプ
BPM Sport-純正コンピュータチューニング / Outborns Fabrication ステンレスオーバードライブ・カスタムダウンパイプ&インターク
DRIVE TRAIN ▶ F80 S1M3 R6MT・Diff:Online-3.38デウォレンシヤルギア / デフ47クラッチ加工・カスタムランプアングル
SUSPENSIONS ▶ Motion Control Suspension-3ウェイ調整式ダンパー&リヤコイルオーバー / BimmerWorldシャーンコンポーネント / カスタムマフフレーム / カスタムチューブブレーキスベクション / SLR Speed-カスタムジョイントリアーム / ボディ補強パーツ
BRAKES ▶ AP Racing-Rad-Cat700+キヤリバー / E46型コンリース純正リヤブレーキ / F80 M3M ZABS(4チャンセル化) / マスターシリンダー・ブレーキ(ペダルボックス加工)
WHEELS ▶ Forgelite-3ピースSport EVOスタイルセンターロックホイール(18.5x18)カスタムオフセット
TIRES ▶ Michelinスポーツカップ2(245 / 35R18)
EXTERIOR ▶ カーボンファイバースポイラー&カーボンフラップ / ブランニュール"MLA"パーフ(ヘッドライト・テールライト・デフカバー等) / 黒色ゴムパーツ&ストレーション
INTERIOR ▶ カーブディナルレッドナップレザーカスタムインテリア / F80型M3純正メーター・エンジンスタートボタン / BMWモータースポーツ純正ソフトトップ



1988
BMW M3

Cory Rowan

課外活動はエンジンスワップ!

コロラドの大学に通うクルマ好きの学生たちが、全米No.1の規模を誇るアフターマーケットショーを席巻! 往年の名車に最新のパーツを載せるプロセスをSNSでアピールし、地元の慈善活動にも貢献した。そして最後には公道を走れる車両として州への登録も完了。きっと日本の若者も夢見るに違いないシンデレラストーリーが、そこにあった。

PHOTO: Alex HIRANO
 TEXT: Takao KOBAYASHI

17年式F80型M3のS55型直列6気筒ツインターボエンジンを搭載し、往年のDTMが採用していた、打突減やコム減はショックの減衰力も向上し、走行に耐えられたナンバーは3030Fが発見された。6000ccのエンジンを搭載して公道を走行できるものである。



アメリカの鍛造ホイールメーカーであるForgiveのオフロード製作したセンターロックの18インチホイールを装着。モチーフはE30型M3スポーツエボの純正ホイールだ。Essex PartsとAPレーシングのコラボ商品であるF80用20インチビッグブレーキに合わせ、オリジナルのオフセットを採用している。サスペンションはジオメトリを複製した上で、ワンオフのアーム部を使用して再構築。レーシングスペックのMCS製3ウェイダンパーも装着されている。アブはE30型をベースにファイナルギヤ比3.38(純正は3.25)に変更し、軽量化で4クランク化。

6000ccと高回転が得意なF80型M3のエンジンルームに、17年式F80型M3のS55型直列6気筒ツインターボエンジンを搭載。吸気効率を高めるチャージエアウエイク(水冷却インタークーラー)とヒートエクステンジヤーは、大容量のCSF製に交換されている。左右サイドの純正クランクシャフトやオイルクーラーなどもF80型からそっくり移植。ブレーキのマスターシリンダーとマスターバルブ、4チャンネルに加工したABSユニットも活用されている。ダウンパイプをフルエンドまでOuroborosファブリケーションがワンオフで製作。一部を機内内装とすることで地上高を稼いでいる。



School of Mod



E30型M3M2Zのシートやリア内張りも、モダンなカーディナルレッドのナパレザーで張り替え。ダッシュボードやステアリングにもアップグレードのナパレザーが張り付けられ、最新鋭のMモデルと同じステップアップも採用している。純正のステアリングなど、内装パーツもできるだけ新品美品を見つけてきて装着。メーカーはF80型M3から移植されているが、驚くほど違和感がない。ゴルフボール型のリフトアップロッドはメーカースポーツの純正部品だ。



1985
BMW M3
Cory Rowan

6人の学生が力を合わせ 初代M3に直6ツインターボを搭載

目 本にも正規輸入されていたE30型の初代M3。往年のDTM(ドイツツーリングカー選手権)での活躍で知られる懐かしのスポーツカーだ。だが、昨年のSEMAショーで瞬時に有名になったM3は、決してノスタルジーだけで話題となったわけではない。なんとエンジンが17年式のF80型M3に搭載されていたS55B30型直列6気筒ツインターボへと換装されており、E30型シャーシへの搭載事例は世界初の快挙だったのである。

また、そのプロジェクトの背景にあったストーリーも注目を浴びた理由のひとつ。じつはエンジンスワップなどの作業を担当したのは名門のコロラド大学ボルダー校に通うクルマ好きの6名の学生たちだったのだ。各分野のエキスパートにメンター(指導者)となってもらい、クルマを仕上げてSEMAに出展するまでのプロセスをSNSで公開。地元コロラドにある小児ガン研究のNPO法人へ寄付を呼びかける活動も並行して行い、改造車を作って注目を浴びる行為が慈善活動にもなり得ることを証明してみせたのである。

そんなプロジェクトの仕掛け人が、彼らと同じコロラドに住み、広告代理店を営んでいるコリー・ローワン。CRCインダストリーからの

スポンサーを取り付けたり、メンターとなってもらえるテクニシャンにコンタクトを取るなど、プロジェクトを精力的に推進していった。

実際の作業は車両1.5台分の広さしかない一般的なガレージで行われ、工具もごくありふれたものを使用。疑問は授業があるので、作業はもっぱら夜間に行われたのだが、SEMAまではわずか1ヵ月という強行軍だった!!

まずはE30型M3からあらゆる部品を引っこ抜き、流用する部品をナンバリングするところからスタート。外装やゴムモールなどはネットを通じて発見した"NLA(No Longer Available)"=販売を終了した純正品を世界中からかき集め、足回りやブレーキには協賛が得られた高性能なアフターパーツを投入していった。

ドナーとなったF80型M3からはエンジンと6速MTのほか、コンピューターや配線、補機類などもそっくり移植。ちなみに、日本仕様のF80型M3には7速DCtしか設定がなかったことを考えると、アメリカでは換装作業がよりシンプルな6速MTも選べたのはラッキーだったとも言えるだろう。

カスタムメイドしたサブフレームにマウントを取り付けたり、オイルパンを加工したりする第

二作業者も学生たちが自ら行い、クレーンでエンジンを吊って仮置きしたりする作業を通じて、自然とチームワークも磨かれていったと言う。

そしてSEMA開幕の直前まで作業が続けられたプロジェクトは、蓋を開けてみれば優秀な展示車両を表彰するバトルオブザビルダーズのトップ12に選出。さらに若手のビルダーだけが参加するヤングガンズではトップ3に入り、数々の欧米の自動車専門メディアに取材されるなど、大成功を取ったのである。

その後もはインスタグラムの公式アカウント@honestassemblyに詳しく掲載されているが、気になるのは最近アップされたBMWの2002とM2コンペティションの写真。むむ、どうやら彼らのシンドレラストoriesには、まだ続きがあるようだ。

Owner

プロジェクトの発起人であるコリー・ローワンを中心に、コロラド大学ボルダー校に通う6名の学生であるジャスティン、ザック、リース、パーカー、アイザック、ビーターが力を合わせて完成させたE30型M3プロジェクト。メインスポンサーであるCRCインダストリーのスタッフもメンターとして参加するなど、一息詰まった結果は、本当に素晴らしいものとなった。